



## システム MTU の設定

---

- [MTU について \(1 ページ\)](#)
- [MTU の設定方法 \(1 ページ\)](#)
- [システム MTU の設定例 \(2 ページ\)](#)

### MTU について

#### システム MTU のガイドライン

システム MTU 値を設定する場合、次の注意事項に留意してください。

- すべてのインターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト最大伝送単位 (MTU) サイズは、1500 バイトです。10 または 100 Mbps で動作するすべてのインターフェイスで MTU サイズを増やすには、**system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。また、**system mtu jumbo** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用すると、すべてのギガビットイーサネットインターフェイス上でジャンボフレームをサポートするように MTU サイズを増やすことができます。
- **system mtu** コマンドはギガビットイーサネットポートには影響せず、**system mtu jumbo** コマンドは 10/100 ポートには影響しません。**system mtu jumbo** コマンドを設定していない場合、**system mtu** コマンドの設定はすべてのギガビットイーサネットインターフェイスに適用されます。

### MTU の設定方法

#### システム MTU の設定

10/100 インターフェイスまたはギガビットイーサネットインターフェイスすべての MTU サイズを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **system mtu bytes**
3. **system mtu jumbo bytes**
4. **end**
5. **copy running-config startup-config**
6. **show system mtu**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： スイッチ# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>system mtu bytes</b> 例： スイッチ(config)# <b>system mtu 2500</b>	指定できる範囲は、1500～9198 バイトです。デフォルトは 1500 バイトです。
ステップ 3	<b>system mtu jumbo bytes</b> 例： スイッチ(config)# <b>system mtu jumbo7500</b>	指定できる範囲は、1500～9198 バイトです。デフォルトは 1500 バイトです。
ステップ 4	<b>end</b> 例： スイッチ(config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b> 例： スイッチ# <b>copy running-config startup-config</b>	コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。
ステップ 6	<b>show system mtu</b> 例： スイッチ# <b>show system mtu</b>	設定を確認します。

## システム MTU の設定例

次に、ギガビット イーサネット ポートの最大パケットサイズを バイト に設定する例を示します。

```

スイッチ(config)#
スイッチ(config)# exit

```

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。